Combi

コンビ チャイルドシート

ゼウスターンシリーズ

ゼウスターン/ゼウスターンEG/ゼウスターンS

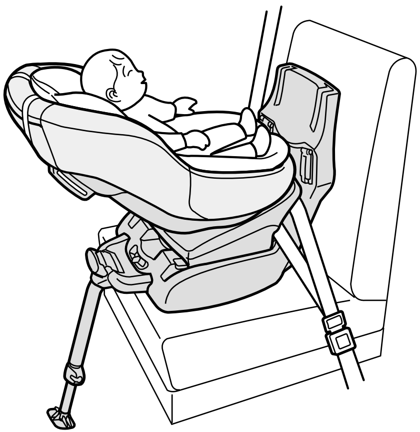
2000/01
UNIVERSAL（汎用型）
-18kg
自
C-1005

品質保証書付

●お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。

●チャイルドシートは正しく取り付けないと本来の機能を果たさず危険です。しっかりと座席に固定してください。

●本書は、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。
（11ページ参照）



危険

体重9kg未満は必ず後向きでご使用ください。前向きでの使用は非常に危険です。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

目　次

お使いいただく前に

このたびは、コンビ チャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

> **チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。**
> **またチャイルドシートを使用するときには、必ず保護者の方が同乗してください。**

お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いいただけます。

●体重 ： 18kg以下のお子さま。
(参考年齢…新生児※〜4才ころ)
7kg未満 → インナークッションを使用
9kg未満 → 必ず後向きで使用
9kg以上10kg未満 → 後向き・前向きどちらでも使用可能
10kg以上 → 必ず前向きで使用

●身長 ： チェストクリップとあごとの間に3cm以上すき間があくお子さま〜後頭部が背もたれより上にでないお子さま

※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上

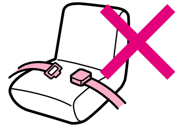
取り付けできない座席

下記以外の座席でも、チャイルドシートをしっかり固定できない場合には使用しないでください。

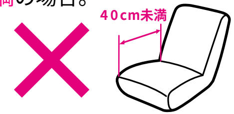
●シートベルトの付いていない座席。



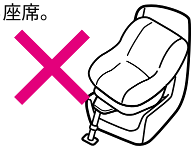
●2点式シートベルトの座席。



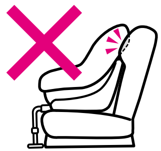
●座席の奥行きが40cm未満の場合。



●極端なバケットシート。
…座面の中央が深くへこんでいる座席。



●ヘッドレスト部が極端に出っぱっている座席。
…ヘッドレスト部の形状により、リクライニング操作や回転操作ができない座席。
※ ヘッドレストが取りはずせる場合は、取りはずすことで操作が可能になればその座席でも取り付けできます。

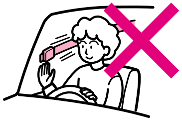


次ページに続く

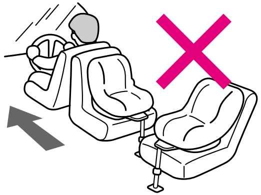
次の条件のいずれか１つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

●パッシブシートベルトの付いた座席。

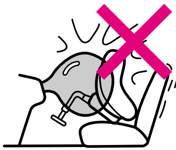
●パッシブシートベルトとは
…車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられます。
（オートマチックシートベルト）

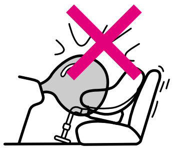


●進行方向に対して横向き、または後向きの座席。



●エアバッグ装備の座席。
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。

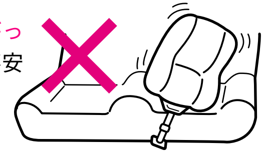




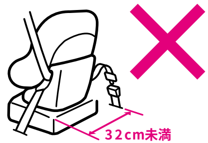
●シートベルトが座席の中間から出ている座席。
…チャイルドシートのシートベルト通し部の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。



●座席の中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。



●シートベルトの取り付け幅※が32cm未満の場合。
※シートベルトが座席の端にあたっているところから、バックルの付け根までの長さ。

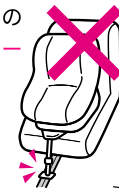


●床に対して座面が低い座席。または高い座席。





●サポートレッグの先端部に座席のスライドレールや床下収納スペースなどがある座席。





安全にお使いいただくために

「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
⚠ 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

チャイルドシートは前座席・後座席ともに取り付けられますが、より安全な後座席への取り付けをおすすめいたします。

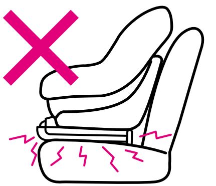
⚠ 危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

●使用条件に適合しないお子さま・座席などでは、使用しないでください。



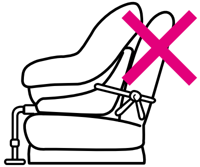
●サポートレッグを収納状態のまま、取り付けないでください。必ずサポートレッグを出し、長さを調節してください。（27ページ参照）
また、サポートレッグを分解して取りはずさないでください。



次ページに続く

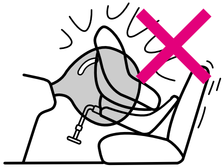
⚠ 危険

●車に取り付けるときは、必ず車のシートベルトで固定してください。ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。

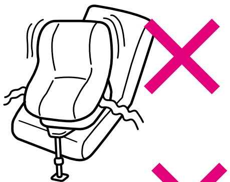


●エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。

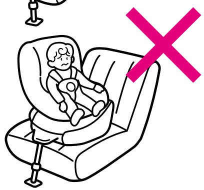
…サイドエアバッグのみの場合には使用できます。



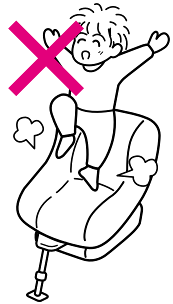
●車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかり固定できないときは、他の座席に取り付けてください。



●チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行しないでください。(お子さまの乗せ降ろしのときのみ使用してください)

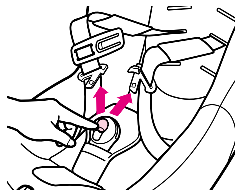


●お子さまがチャイルドシートの上に立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。
座らせたときには、幼児ベルトが正しく装着され、左右の差込タングがしっかりバックルに差し込まれ、表示が緑色に変わっていることを確認してください。



⚠ 緊急時の脱出

事故など緊急時は、保護者の方がバックルボタンを押し、幼児ベルトとチェストクリップをはずして、すみやかにお子さまを車外に脱出させてください。



⚠ 警告

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

● 幼児ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息するおそれがあります。

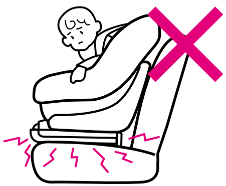
● 幼児ベルトは正しい長さに調節してください。（37ページ参照）



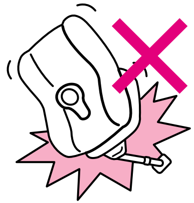
● 7kg未満のお子さまを乗せる場合には、必ずインナークッションを正しく取り付けて、お子さまの体にフィットした状態で使用してください。



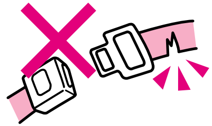
● サポートレッグを収納した状態で、お子さまを座らせないでください。



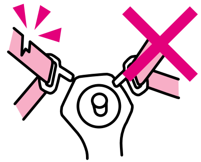
● 衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも強い衝撃を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、絶対に使用しないでください。



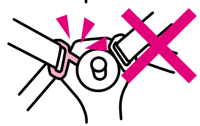
● 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。



● 幼児ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、当社のコンシューマープラザにお問い合わせください。



● バックルにゴミなどが詰まって確実に差し込めない場合は修理の必要がありますので、当社のコンシューマープラザにお問い合わせください。



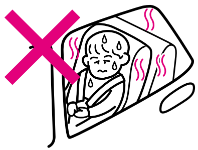
次ページに続く

⚠ 警告

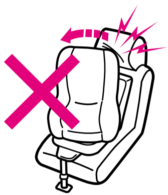
●お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差込タングがバックルからはずれていないことを確認してください。
はずれていると本来の働きをせず、さらにベルトが首に巻き付くおそれもあります。



●お子さまを車内に1人で放置しないでください。
日ざしの強い日などには、車内の温度が高くなり、お子さまが脱水症状になるおそれがあります。また予期せぬ事故の元となります。必ず保護者の方が同乗してください。



●車の座席形状によって、チャイルドシートの背もたれが、車のヘッドレスト部にぶつかり回転操作できない場合があります。その状態のままで、無理に回転させないでください。故障の原因になります。

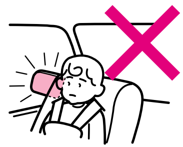


次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねくおそれがあります。

●お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。



●車の前座席に、チャイルドシートを後向きに取り付け、助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。



●シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。

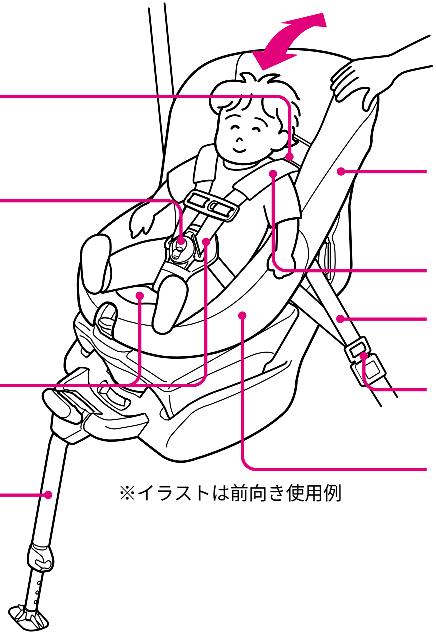


●2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けないでください。緊急時の脱出の妨げになります。



⚠ 日常の点検

チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。



※イラストは前向き使用例

幼児ベルトが肩ベルト通し穴の正しい位置にセットされていること

差込タングがしっかりとバックルに差し込まれ、差込表示が緑に変わっていること

肩ベルトがお子さまの体にフィットしていること（調節ベルトを引いてフィットさせてください）

レッグエンドが床につくように、サポートレッグの長さが調節してあること

チャイルドシートが車の座席にしっかりと固定されていること（本体を前後にゆすり、確認してください）

前向き時、座席部背面のレールがベース部の溝に入り接続ピンで確実に固定されていること

幼児ベルトにねじれやたるみがないこと

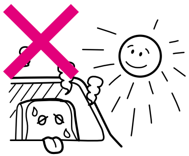
車のシートベルトにゆるみ、たるみ、ねじれがないこと

車のシートベルトの差込金具がしっかりとバックルに差し込まれていること

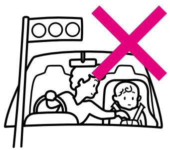
回転操作後、座席部がロックされ確実に前向きまたは後向きになっていること

⚠注意

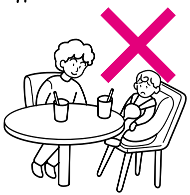
●直射日光が当たると、本体や差込タング、サポートレッグなどが熱くなり、お子さまがやけどをするおそれがあります。お子さまを乗せる前に各部にさわり、やけどをしないことを確認してから使用してください。



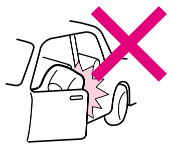
●走行中は、チャイルドシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートに触らないようにしてください。



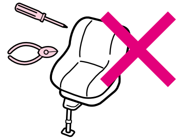
●チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがの原因となります。この取扱説明書に記載されている使いかたで使用してください。



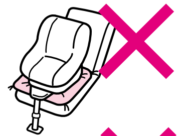
●チャイルドシートを車のシート可動部やドアにはさまないように、十分注意してください。



●チャイルドシートを改造しないでください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。



●車の座席に、付属の角度調節マット以外のクッションや座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを取り付けないでください。チャイルドシートがしっかり固定されません。



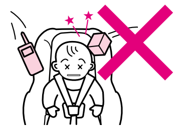
●チャイルドシートを風雨にさらさないでください。



●シートクッションなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外のものと取り替えたりしないでください。（衝突時の安全性能に影響を与えるおそれがあります）



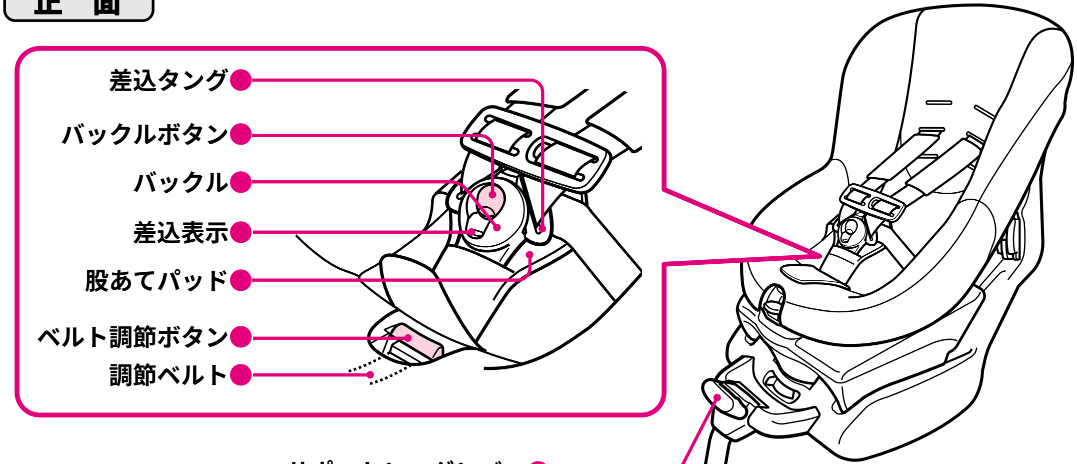
●固定されていない物を車内に置かないでください。急ブレーキや衝突時にお子さまなどに当たる可能性があります。

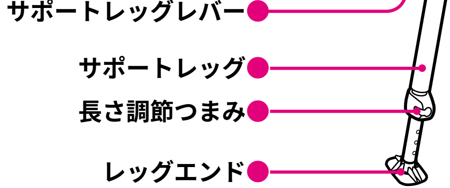


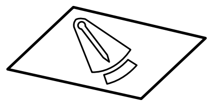
各部のなまえ

ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

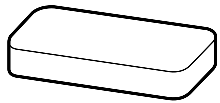
正　面







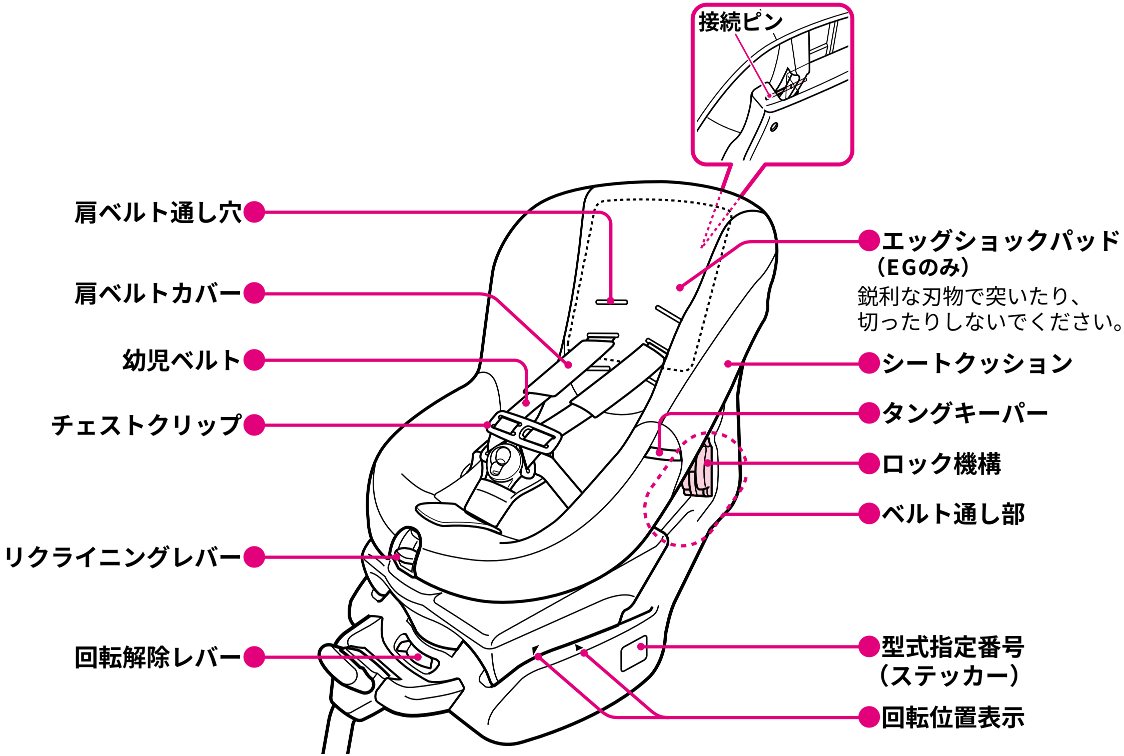
●角度チェッカー



●角度調節マット

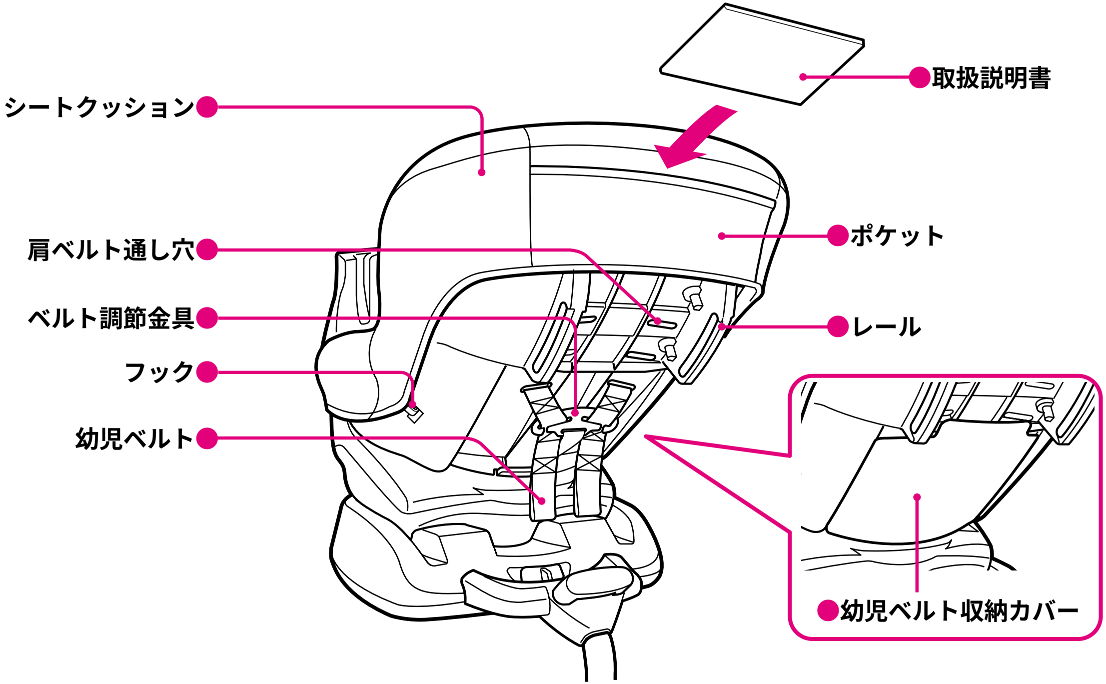
体重7kg未満のお子さまに、必要に応じて使用します。
詳しくは、21ページをご覧ください。

次ページに続く

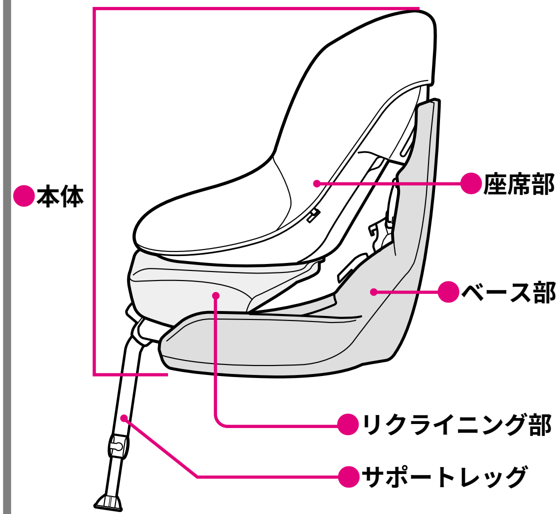


接続ピン
肩ベルト通し穴
肩ベルトカバー
幼児ベルト
チェストクリップ
リクライニングレバー
回転解除レバー
エッグショックパッド
（EGのみ）
鋭利な刃物で突いたり、
切ったりしないでください。
シートクッション
タングキーパー
ロック機構
ベルト通し部
型式指定番号
（ステッカー）
回転位置表示

背面・側面


取扱説明書
シートクッション
ポケット
肩ベルト通し穴
ベルト調節金具
レール
フック
幼児ベルト
幼児ベルト収納カバー

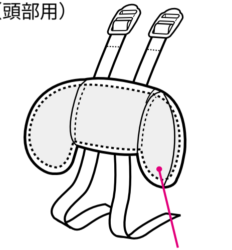
本書で使われる「本体」「座席部」「ベース部」「リクライニング部」とは、以下の部分をいいます。



インナークッション

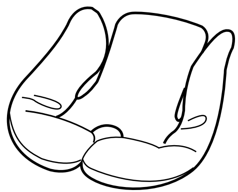
●EGタイプ

インナークッション
（頭部用）



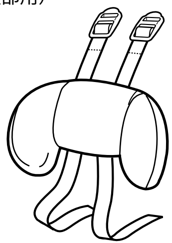
※インナークッション（頭部用）のカバーをはずすとヘッドパッドとしても使えます。

インナークッション
（座面用）

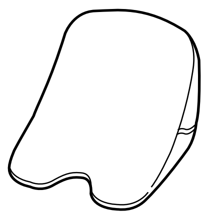


●EGタイプ以外

インナークッション
（頭部用）



インナークッション
（座面用）



車に取り付ける前に

ここでは、お子さまの体重による取り付けの向き、インナークッションおよびヘッドパッドの使いかた、リクライニングの使いかたを説明しています。お子さまの体重に合わせて正しくお使いください。（※ヘッドパッドはEGタイプのみに付属）

お子さまの成長に合わせて、3つの使いかたができます。

1 体重7kg未満の場合

その他の条件

- 後頭部がインナークッションから出ないこと
- 座らせたとき、チェストクリップとあごとの間に3cm以上のすき間があくこと

参考月齢：新生児〜4カ月ころ（首がすわるころ）まで

前向きでは、絶対に使用しないでください。

※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上。

※車の座席角度が極端に大きい場合は、付属の角度調節マットを使用してください。（21ページ参照）

使いかた

- 進行方向に対して後向き
  （取り付けは前向きで行い、その後回転させてください）
- インナークッションを必ず使用する
- ヘッドパッドのみでは使用禁止



2 体重7kg以上〜10kg未満までの場合

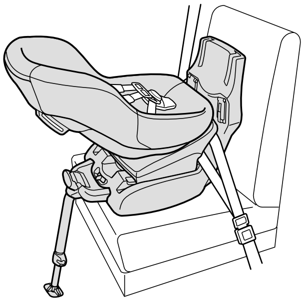
その他の条件

- 後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

参考月齢：4カ月ころ（首がすわるころ）〜1才ころまで

使いかた

●進行方向に対して後向き
（取り付けは前向きで行い、その後回転させてください）
●インナークッションは使用禁止
●ヘッドパッドは使用できます



3 体重9kg以上～18kg以下までの場合

その他の条件

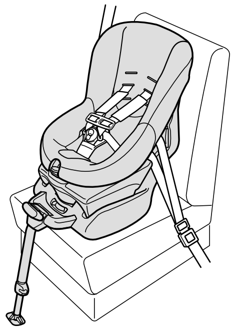
●後頭部がチャイルドシートの背もたれから上に出ないこと

参考年齢：1才ころ～4才ころまで

9kg未満のお子さまは必ず後向きに取り付けてください。
9kg～10kgのお子さまは、後向き、前向きどちらでもお使いいただけます。

使いかた

●進行方向に対して前向き
●リクライニングは3段階使用できます（取り付けは、一番寝かせた状態で行ってください）
●インナークッションは使用禁止
●ヘッドパッドは使用できます



インナークッションの使いかた(7kg未満のお子さまには)

インナークッションは、小さな赤ちゃんを保護するためのものです。お子さまの体重が7kg未満の場合には、インナークッションをお使いください。（工場出荷時、インナークッションは取り付けられています）
また、7kg以上になりましたら必ず取りはずしてください。

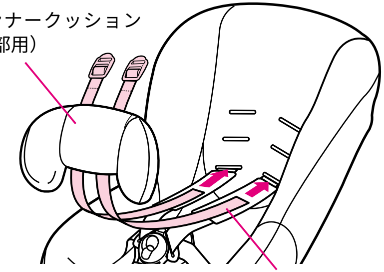
⚠ 危険

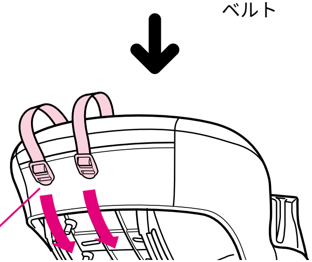
- インナークッションが使用できるのはお子さまの体重が7kg未満のときだけです。7kg以上で使用すると、本来の機能を果たさず危険です。
- インナークッション(頭部用)とインナークッション(座面用)は、どちらか片方だけでは使用しないでください。必ずセットでお使いください。
- インナークッションは、取り付けかたをよくお読みになり、正しく使用してください。

⚠ 注意

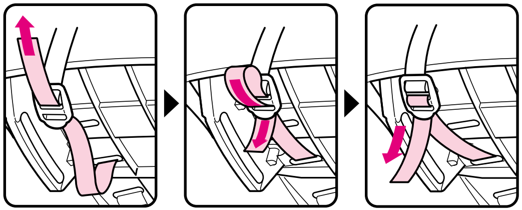
- はずしたインナークッションを車内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、インナークッションを持たないでください。

1 インナークッション(頭部用)のベルトを、幼児ベルトを通している肩ベルト通し穴と同じ穴に通し、バックルを上から回し込みます。

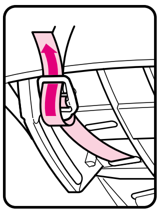




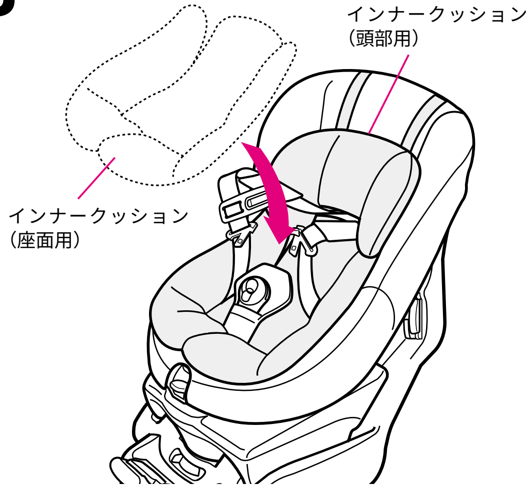
2 ベルトを図のようにバックルに通し、インナークッション(頭部用)を取り付けます。



最後にベルトの先端を上に出した状態で、留めてください



3 インナークッション(座面用)を取り付けます。



ワンポイント

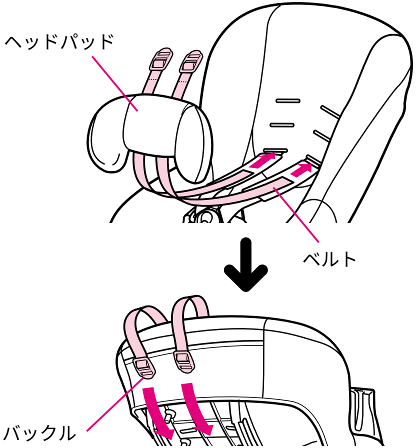
● お子さまの体格によってインナークッションが窮屈な場合は、インナークッション(座面用)の中に入っているウレタンを取りはずしてご使用ください。

ヘッドパッドの使いかた（EGタイプのみ）

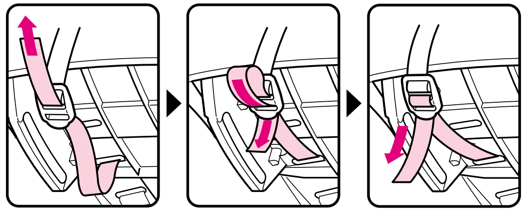
ヘッドパッドは、お子さまの体重が7kg以上の場合に、必要に応じてお使いいただけます。

注意
- はずしたヘッドパッドを車室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります
- チャイルドシートを持ち運ぶときには、ヘッドパッドを持たないでください。

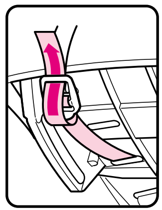
1 ベルトを、幼児ベルトを通している肩ベルト通し穴と同じ穴に通し、ベルトのバックルを、上から回しこみます。



2 ベルトを図のように通して、ヘッドパッドの位置がずれないように締め付けます。



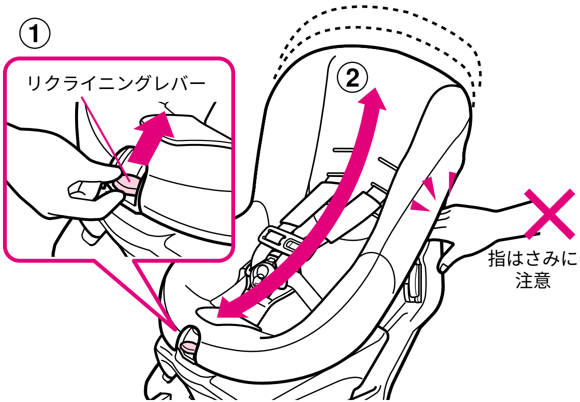
最後にベルトの先端を上に出した状態で、留めてください。



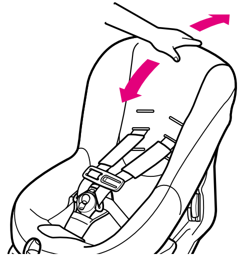
リクライニングの使いかた(前向き使用時のみ)

お子さまが眠ったときなどのために、チャイルドシートを寝かせることができます。
※後向き使用の場合、リクライニングはできません。

1 ①チャイルドシートの座席の下にあるリクライニングレバーを図の矢印のように上げ、②リクライニングの角度を調節します。(3段階)



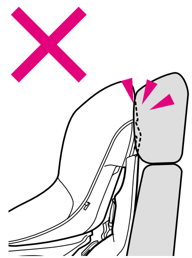
2 レバーから指を離して本体を前後にゆすり、しっかりロックされていることを確認してください。



車のヘッドレストが取りはずせる場合、必ず取りはずしてください。

⚠注意
- 手をはさまないよう、ご注意ください。
- 同乗者の手元にも、充分ご注意ください。
- リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。

⚠警告
- 車の座席形状によって、チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作ができない場合があります。その状態のままで、無理にリクライニングさせないでください。
故障の原因になります。



車への取り付けかた

ここでは、シートベルトの種類と取り付け上のご注意と、車への取り付けかたを説明しています。

※車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは1ページをご覧ください。

⚠危険

- チャイルドシートがしっかり固定できない場合は、本来の機能を果たさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。
- サポートレッグを収納状態のまま、取り付けないでください。必ずサポートレッグを出して、長さを調節してください。
- 車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。
- エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。
  ※サイドエアバッグのみの場合には使用できます。
- チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま、走行しないでください。

⚠警告

- 車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けないでください。
- 助手席にチャイルドシートを取り付けてドアミラーが見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。
- お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで固定してください。
- シフトノブやサイドブレーキなど、運転に支障をきたす場合は、助手席に取り付けないでください。
- 2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。
- 付属の角度調節マットは、車の座席角度が極端に大きい場合、体重7kg未満のお子さまに限り使用できます。

シートベルトの種類と取り付け上の注意点

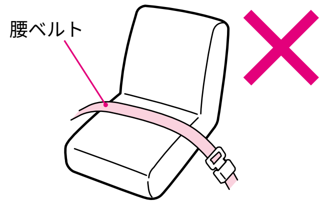
チャイルドシートは、シートベルトの種類により取り付けかたが異なったり、取り付けられない場合があります。

> ⚠ **危険**
> - 必ず3点式シートベルトの座席に取り付けてください。
> - 2点式シートベルトの座席では絶対に使用しないでください。本来の機能を果たさず、大変危険です。

車のシートベルトの種類(シートベルトの方式)	特徴(見分け方)	取り付け時の注意点
ELR付きシートベルト(緊急ロック式ベルト巻き取り装置付き)	ゆっくり引くと自由に出入りし、勢いよく引くとロックする。	ロック機構で固定してください。
チャイルドシート固定機能付きベルト(AELR付きシートベルト)	ベルトを全て引き出した後で巻き戻すと自動的に締まり、それ以上伸びなくなる。(ベルトを全て巻き戻すと解除される)	シートベルトを全て引き出した後ベルトを戻し、チャイルドシート固定機能をきかせた状態で、ロック機構により固定してください。
マニュアル式シートベルト	巻き取り装置の付いていないシートベルト。	チャイルドシートに合わせてベルトの長さを調節し、ロック機構により固定してください。
NLR付きシートベルト	ロック機能のない巻き取り装置付きシートベルト。	
ALR付きシートベルト	ベルトを引き出す途中で止めるとロックされ、それ以上引き出せなくなる。	

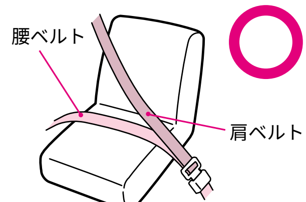
2点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトの2点で体を支えるシートベルトのこと。



3点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトと肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。



角度調節マットと角度チェッカーの使いかた

角度調節マットは、車の座席角度が極端に大きい場合、インナークッション使用時(体重7kg未満)に限り使用できます。お子さまの体重が7kg以上になりましたら、必ず取りはずしてください。

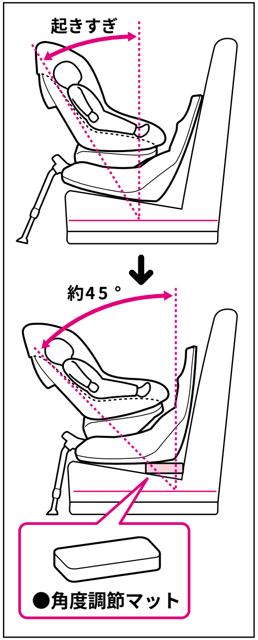
角度調節マットが必要な座席

スポーツタイプのシートや極端にクッションの柔らかいシートの場合、チャイルドシートを後向きに取り付けると、図のように背もたれが起きすぎてしまうことがあります。

この状態でお子さまを座らせると、座りごごちが悪く不安定になります。

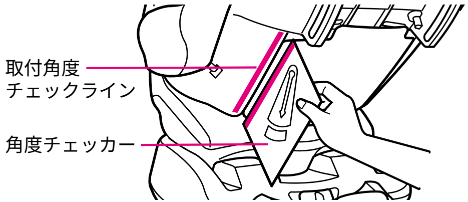
●このような場合に付属の角度調節マットを座席の奥にはさみ、チャイルドシートの角度を図のように45 °前後に調節します。

※車を平らな場所に駐車させてください。



●体重7kg未満のお子さまを乗せる場合、チャイルドシートを取り付けた後、**角度チェッカー**を使って角度調節マットが必要かどうかを、必ず確認してください。

※角度チェッカーは、図のように「取付角度チェックライン」に合わせてください。



⚠ 警告

● 角度調節マットを座面の先端や、車の背もたれとベース上部のすき間に使用しないでください。

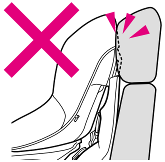
⚠ 注意

● 角度チェッカーは横にかたむくと針が止まってしまいます。垂直にして針が正しく動く状態で目盛を見てください。

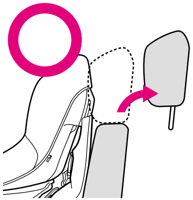
座席への取り付けかた

⚠警告

● 車の座席形状によって、チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作や回転操作ができない場合があります。

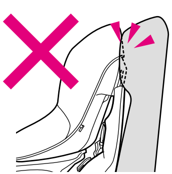


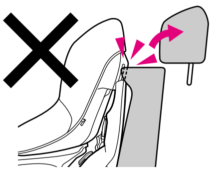
● そのような場合は、無理に操作をせずに、ヘッドレストをはずしてから、再び操作を行ってください。
無理に操作すると故障の原因になります。



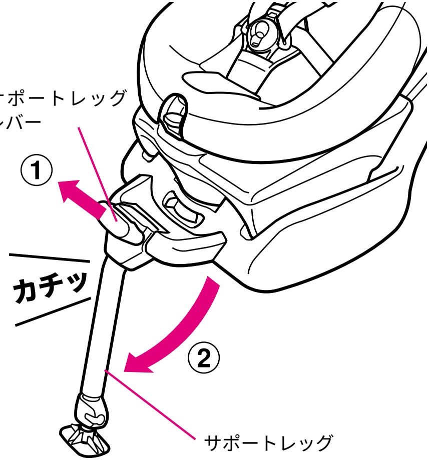
● ヘッドレストがはずれず、リクライニング操作や回転操作ができない場合、および、ヘッドレストをはずしても操作できない場合、その座席では使用しないでください。

※ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもご使用いただけます。





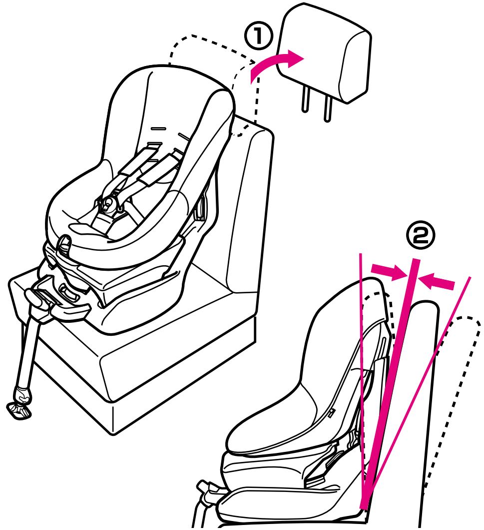
1 ① サポートレッグレバーを手前に引いて『カチッ』と音がするまで、②サポートレッグを引き出し、車の座席に置きます。



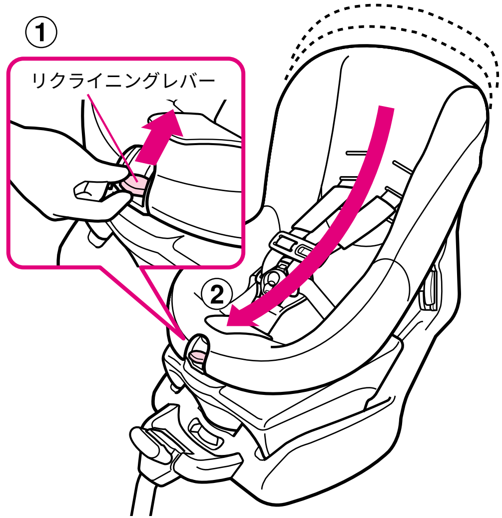
⚠危険

● サポートレッグを収納状態のまま、取り付けないでください。

2 ①座席のヘッドレストが取りはずせる場合は取りはずし、②座席の背もたれがリクライニングできる場合はベース部の角度に近い角度に調節します。



3 ①リクライニングレバーを上げ、②座席部を最も寝かせた状態にします。

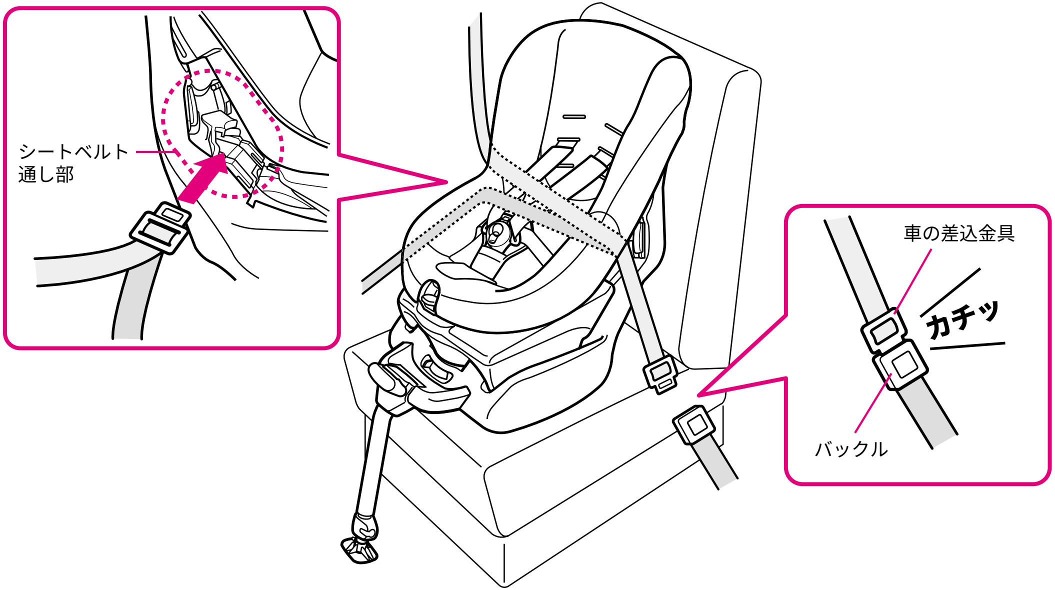


（取り付けはお子さまの体重に関係なく、チャイルドシートをリクライニングさせた状態で、前向きで行ってください。9kg未満の場合は、取り付け後、座席を回転させて後向きで使用してください。）

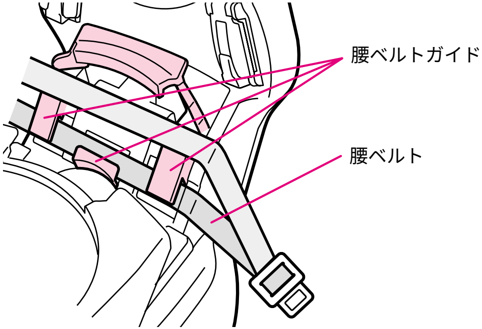
次ページに続く

4 車のシートベルトをシートベルト通し部に通し、反対側から引き出します。

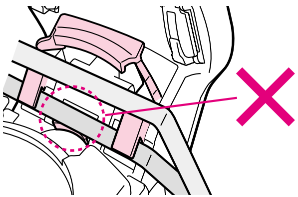
5 シートベルトにねじれがないことを確認し、車の差込金具をバックルに差し込みます。



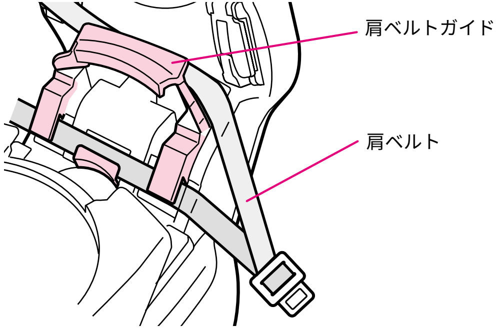
6 シートベルト通し部内の車のシートベルト(腰ベルト)を、腰ベルトガイド(3カ所)に装着します。

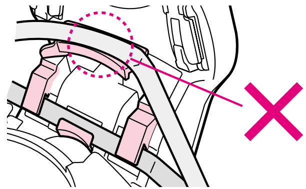


ワンポイント
● 腰ベルトガイドと肩ベルトガイドを間違えないように装着してください。



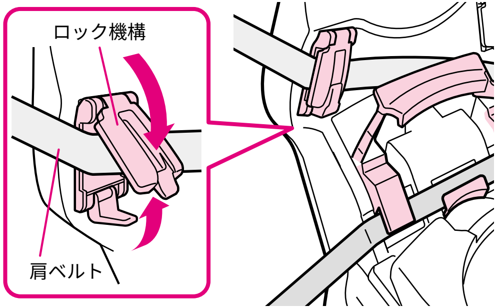
7 シートベルト通し部内の車のシートベルト(肩ベルト)を、肩ベルトガイドに装着します。



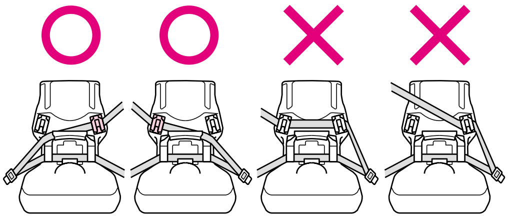


次ページに続く

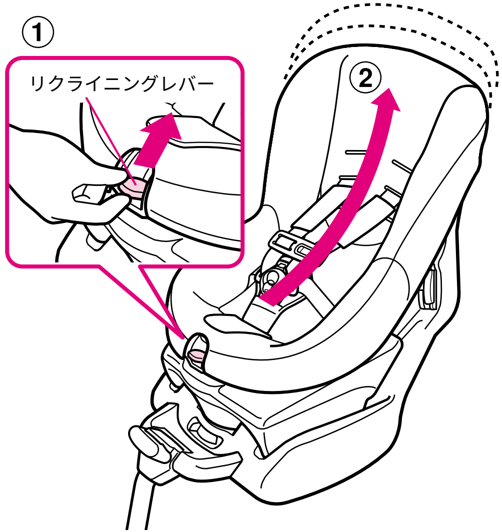
8 車のバックルと反対側のロック機構に、車のシートベルト（肩ベルト）をはさみ込みます。



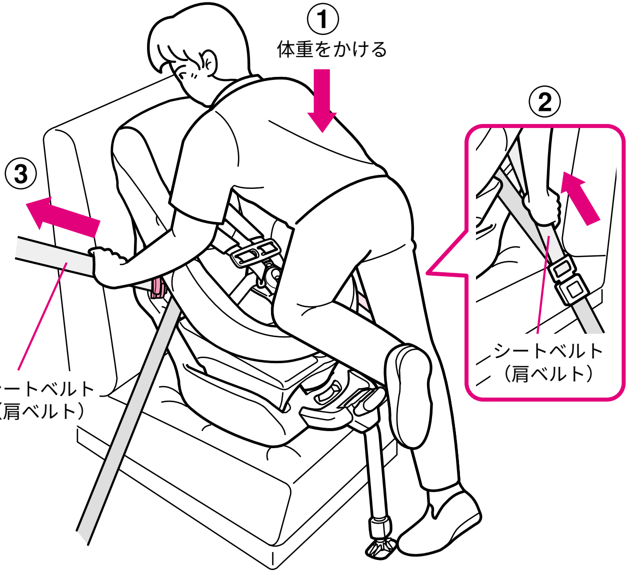
ロック機構は左右2カ所ありますが、使用するのは、車のバックルと反対側のロック機構だけです。



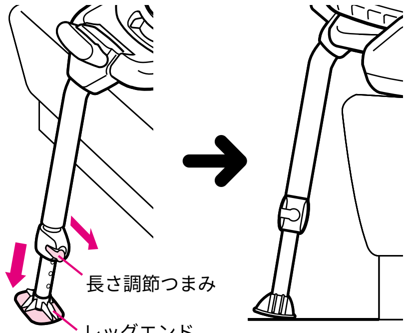
9 ①リクライニングレバーを上げ、②座席部を最も起こした状態にします。



10 ①チャイルドシートにひざを乗せて体重をかけ、座席に沈み込ませながら、②差込金具上部のシートベルト（肩ベルト）を強く引き、③反対側のシートベルト（肩ベルト）を横方向に強く引き、シートベルトのゆるみをなくします。



11 サポートレッグの長さ調節つまみを引いて、レッグエンドを車の床まで伸ばし、長さ調節つまみを戻します。（12段階調節）



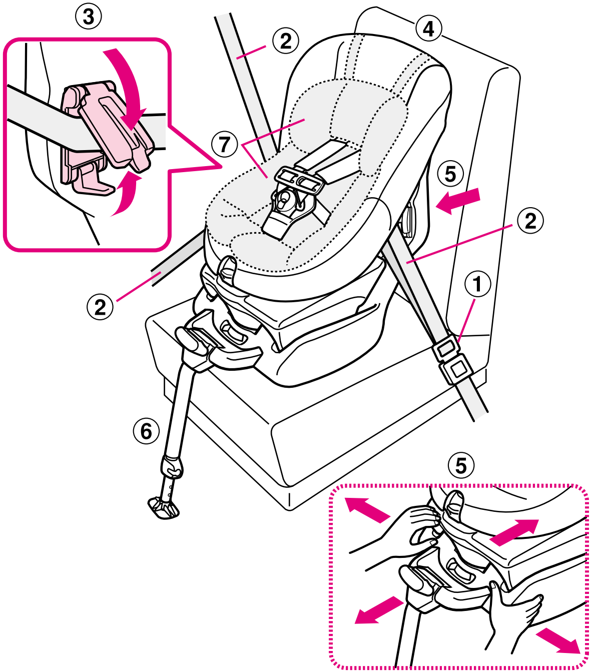
危険

- サポートレッグを分解して取りはずさないでください。
- 長さ調節つまみを戻したとき、レッグエンドが必ず床についていること。

ワンポイント
- 穴の位置が合わないと、長さ調節つまみは戻りません。その場合は穴の位置が合うようにチャイルドシートを少し持ち上げながら、長さ調節つまみを確実に戻してください。

取り付け時完了チェックのしかた

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。



① 車のシートベルトの差込金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。
② 車のシートベルトに、ゆるみ、たるみ、ねじれがないこと。
③ 車のバックルと反対側のロック機構に、車のシートベルト（肩ベルト）がはさみ込まれていること。
④ チャイルドシートの背もたれと車のヘッドレスト部がきつくぶつかっていないこと。
⑤ 車の座席の背もたれと、チャイルドシートのベース部の背面がしっかり接していること。
ベース部を前後左右にゆすって、ベース部が約3cm以上動かないことを確認してください。
⑥ レッグエンドが床につくように、サポートレッグの長さが調節されていること。
⑦ お子さまの体重が7kg未満の場合は、インナークッション（頭部用・座面用の両方）を取り付けてあること。7kg以上は両方とも取りはずしてあること。

⚠ 警告

- これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合は車のシートベルトを締め直すなど再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

座席部の回転のしかた（前向きから後向きへ）

⚠ **危険**

● チャイルドシートの座席部を横向きにしたまま走行しないでください。横向きでは、本来の機能を果たさず危険です。

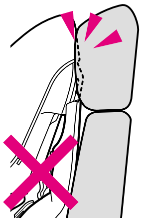


⚠ **警告**

● チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作や回転操作ができないときは、ヘッドレストをはずしてください。

● ヘッドレストをはずしても操作ができない場合、その座席では使用しないでください。

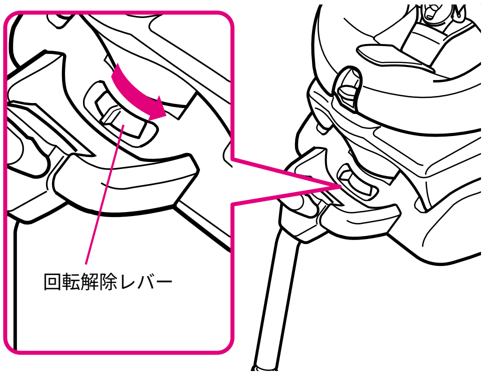
※ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもご使用いただけます。



⚠ **注意**

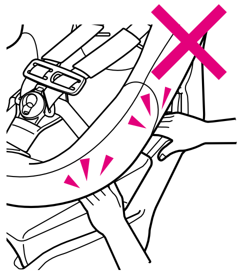
● お子さまを乗せた状態で回転させるときは、お子さまの手足がベース部と座席部の間などにはさまらないようご注意ください。

1 回転解除レバーをスライドさせます。

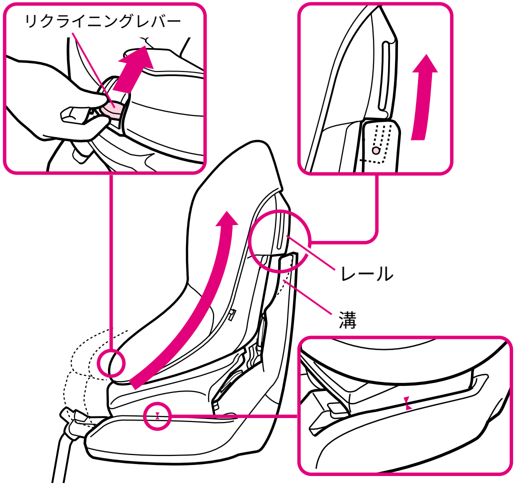


⚠ **注意**

● 座席の背部や下部のすき間に手や指を入れたまま、回転操作しないでください。



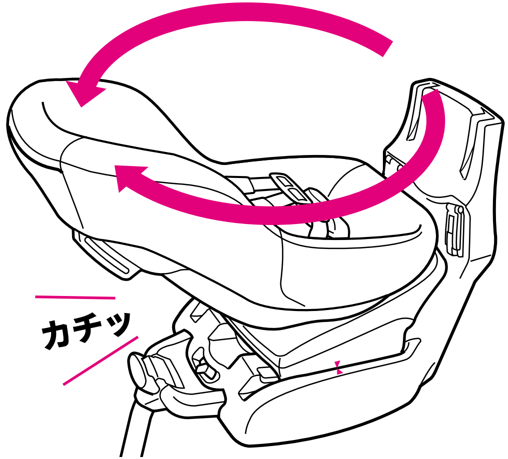
2 リクライニングレバーを上げたまま、ベース部とリクライニング部の回転位置表示がそろう位置まで座席部を押し込むようにして起こします。



⚠警告

- 回転位置表示がそろっていない状態では、回転操作を行わないでください。
  むりに回すと故障の原因になります。

3 そのまま座席部を回し、動き始めたらリクライニングレバーから指を離してください。座席部が後向きになると、『カチッ』と音がしてロックがかかります。



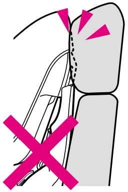
4 座席部を左右に動かして、確実にロックされていることを確認してください。

座席部の回転のしかた（後向きから前向きへ）

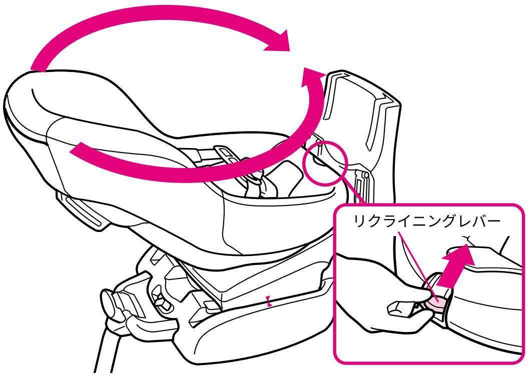
⚠ 警告

- チャイルドシートの背もたれが車のヘッドレスト部にぶつかってリクライニング操作や回転操作ができないときは、ヘッドレストをはずしてください。
- ヘッドレストをはずしても操作ができない場合、その座席では使用しないでください。

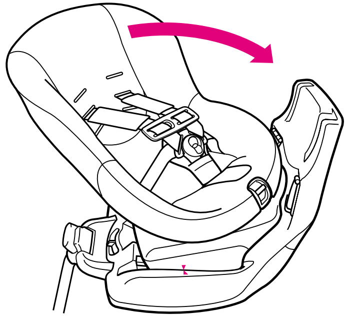
※ ぶつかっていても無理なく操作できる場合は、その座席でもご使用いただけます。



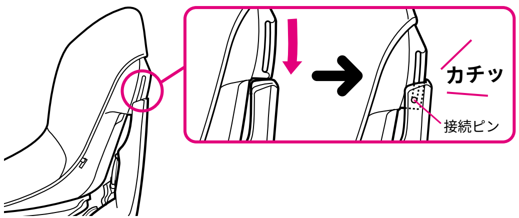
1 リクライニングレバーを上げ、座席部を回します。動き始めたら、リクライニングレバーから指を離してください。



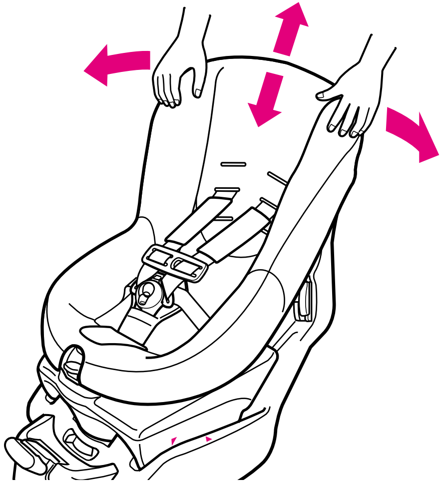
2 座席部を回して、前向きにします。



3 座席部背面のレールがベース上部の溝の位置にくると、座席部が1段下がり、『カチッ』と音がして接続ピンで座席部とベース部が固定されます。

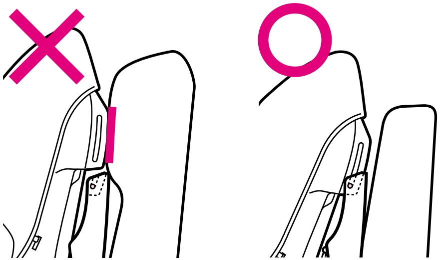


4 座席部を上下左右に動かして、確実にロックされていることを確認してください。



⚠ **警告**

● チャイルドシートの座席部のレールがベース部の溝に入らずに接続ピンが戻らない状態ではチャイルドシートの座席部とベース部が固定されておらず万一の際本来の機能を果たさず、危険です。必ず、レールがベース部の溝に入り接続ピンで完全に固定されていることを確認してください。



肩ベルト通し穴の位置の決めかた

お子さまを座らせたとき、お子さまの肩の高さよりも、肩ベルトが下にある場合は、お子さまの肩のすぐ上になるように幼児ベルトの位置を変えてください。(工場出荷時は一番下になっています)

低月齢のお子さまの場合

体重7kg未満のお子さまの場合は、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」と「幼児ベルトの長さ調節のしかた」については、特に注意してください。

⚠ 危険

- 肩ベルト通し穴の位置と幼児ベルトの長さが適正かを確認してください。
- 幼児ベルトが正しく肩にかかっていることを確認してください。

※**これらの調節が誤っていると、車の衝突時にお子さまがチャイルドシートから飛び出してしまうおそれがあります。**

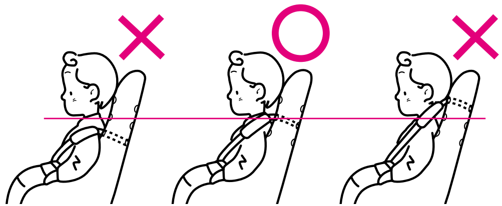
⚠ 注意

- 1時間以上は連続使用しないでください。

1 お子さまをチャイルドシートに座らせ、正しい肩ベルト通し穴の位置を確かめます。

⚠ 警告

- 幼児ベルトは、着座したお子さまのすぐ上の肩ベルト通し穴に通してください。



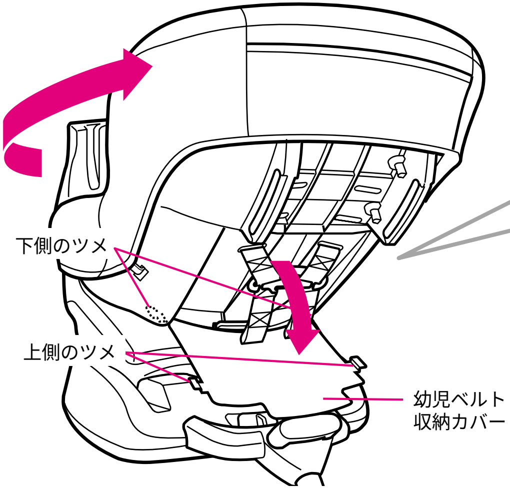
- 肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体に合っていないと、衝撃が加わったときに肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。
- 肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。

次ページに続く

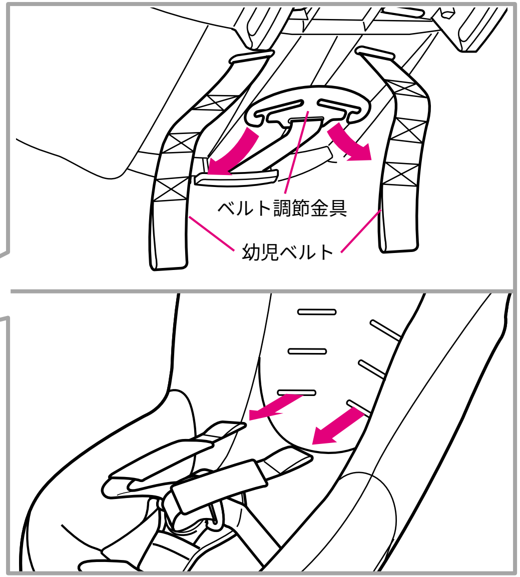
2 座席部を回転させて後向きにし、幼児ベルト収納カバーの上側のツメをはずし図のように開きます。

⚠注意

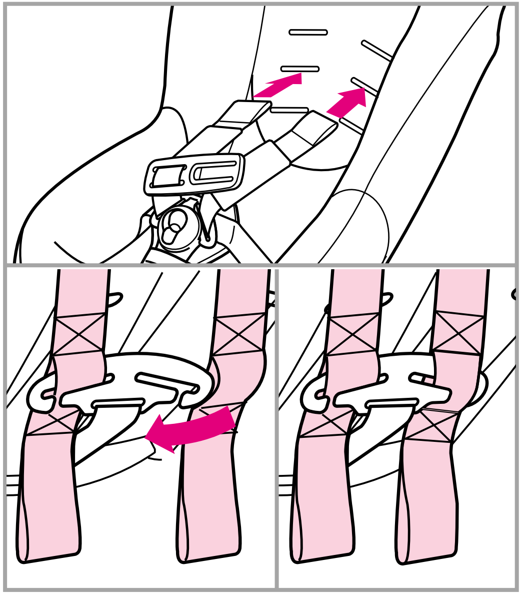
- 幼児ベルト収納カバーを開くときは、下側のツメは、はずさないでください。幼児ベルトがはみ出し回転部にからまり、故障の原因となります。
- 幼児ベルト収納カバーは、肩ベルト位置の変更後、必ず元の位置に戻してください。幼児ベルトがからまるなど、故障の原因となります。



3 ベルト調節金具から幼児ベルトをはずし、座席部前面から引き抜きます。



4 幼児ベルトを、お子さまの体に合った肩ベルト通し穴に入れ直し、裏側でベルト調節金具を取り付けます。

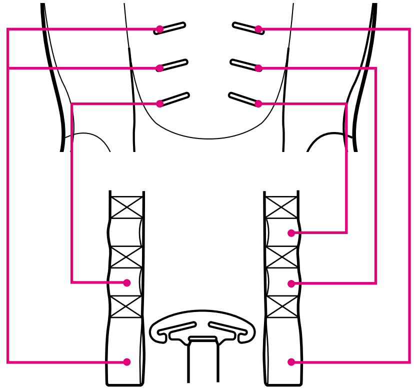


警告

● ベルト調節金具に取り付ける幼児ベルトの位置は、左右同じ段を使用してください。

ワンポイント

● 肩ベルト通し穴と幼児ベルトの取り付け位置は、お子さまの体格により異なりますが、組み合わせは下の図のようになります。

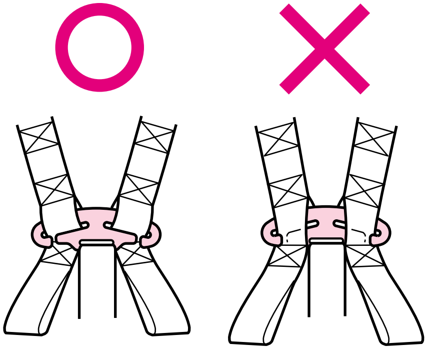


●大きめの体格のお子さま

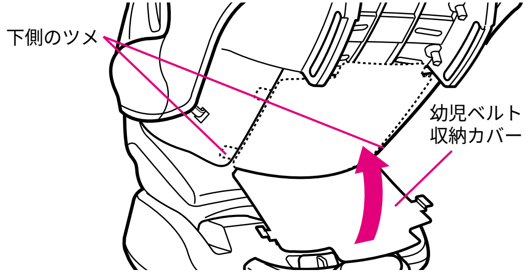
●標準的な体格のお子さま

⚠ 警告

● ベルト調節金具に幼児ベルトを取り付けるときは、正しく取り付けられた状態をすぐに確認できるように、ベルト調節金具の切り込み位置が見えるように取り付けてください。

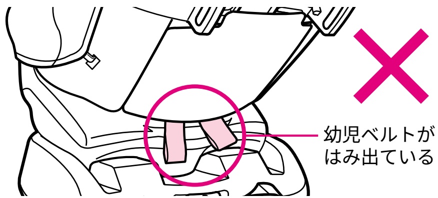


5 幼児ベルトが出ないように、幼児ベルト収納カバーを閉じます。



⚠ 注意

● 幼児ベルト収納カバーを開くときは、下側のツメは、はずさないでください。幼児ベルトがはみ出し回転部にからまり、故障の原因となります。



幼児ベルトの長さ調節のしかた

お子さまを座らせて、幼児ベルトがフィットするように長さを調節します。左右どちらかのベルトを強く引くと、左右のベルトの長さが変わりますので、左右の幼児ベルトの長さが同じになるように調節してください。

> **⚠ 警告**
> - 必ずベルトの長さを調節してください。お子さまの体にフィットしていないと、衝突時にお子さまが飛び出したりするおそれがあります。
> - 幼児ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息するおそれがあります。

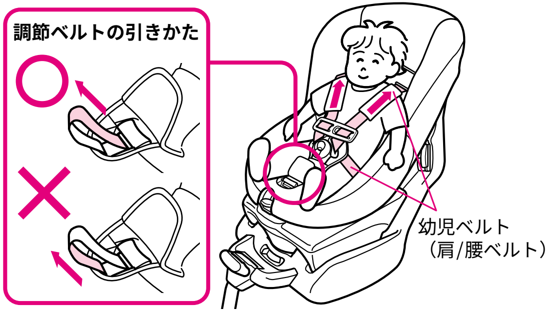
ワンポイント

- お子さまと幼児ベルトの間に、大人の手のひらが入るくらいが適切です。きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児ベルトの長さを調節してください。



幼児ベルトを短くするには（お子さまを乗せ終わったら）

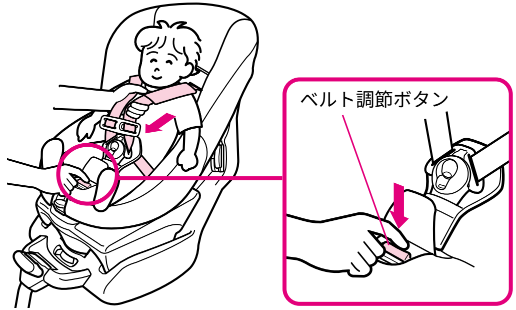
カバーの下の調節ベルトを引きます。



> **⚠ 警告**
> - 調節ベルトを引っ張りきってもたるみがある場合は、ベルト調節金具の位置を変えてください。（35ページ参照）
> - 調節ベルトには巻き取り装置がついています。下側のベルトを引いても幼児ベルトは短くなりません。（上図参照）

幼児ベルトを長くするには（お子さまをおろすときは）

カバーの下のベルト調節ボタン（オレンジ色）を押しながら、幼児ベルトを手前に引きます。



ワンポイント

- 左右どちらかを強く引くと、ベルトの長さが変わりますので、左右のベルトを一緒に引いてください。

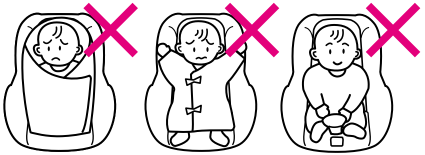
お子さまの座らせかた

次ページに続く

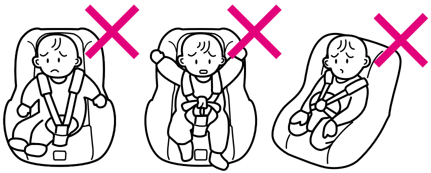
あらかじめ、使用するベルト通し穴の位置をお子さまの体に合わせてください。

⚠ 警告

- おくるみなど、両足が分かれない衣類の着用はおやめください。

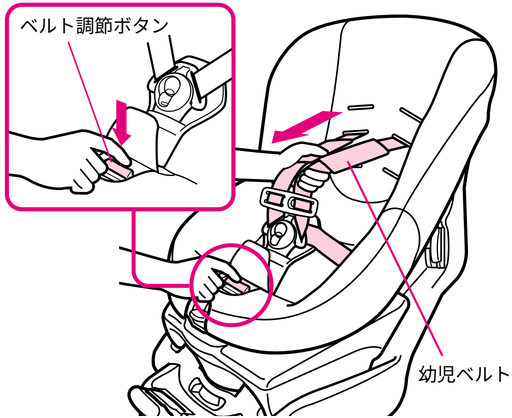


- お子さまをタオルなどでくるんだまま、乗せない。
- かさばったベビーウェアを着せたまま、乗せない。
- お子さまを乗せるときには、下図のような乗せかたをしないでください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。



1 お子さまを乗せやすくするため、座席部を横向きに回転します。（29～32ページ参照）

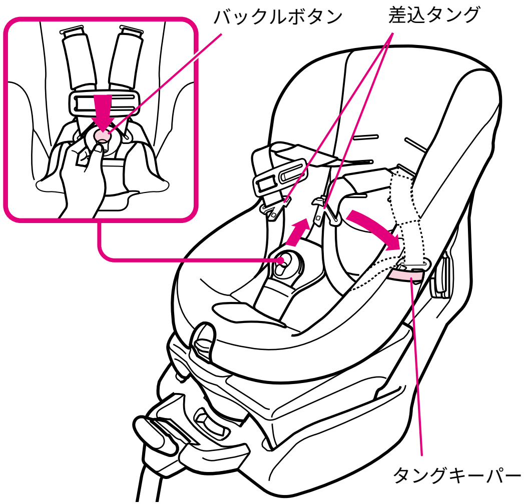
2 ベルト調節ボタン（オレンジ色）を押しながら、左右の幼児ベルトを手前に引き、ゆるめます。（37ページ参照）



ワンポイント

- ベルト調節ボタンが固い場合は、調節ベルトを引っぱりながら、ベルト調節ボタンを強く押し込んでください。

3 チェストクリップの右片方を幼児ベルトからはずし、バックルボタン(赤色)を押して差込タングを抜きます。



ワンポイント

● 差込タングをシートクッション側面にあるタングキーパーに差し込んでおくと、お子さまの乗せ降ろしの際にじゃまになりません。

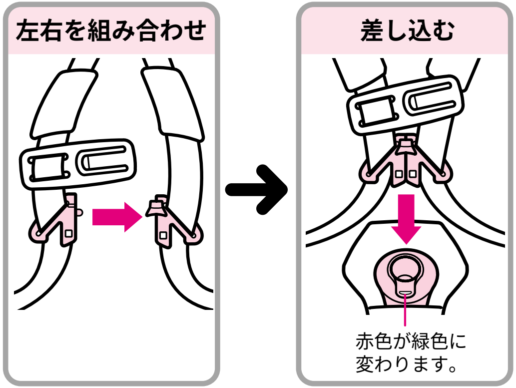
4 お子さまを深く座らせて、左右の腕を幼児ベルトに通します。



次ページに続く

5 左右の差込タングを組み合わせてから『カチッ』と音がするまで、差込タングをバックルに差し込みます。

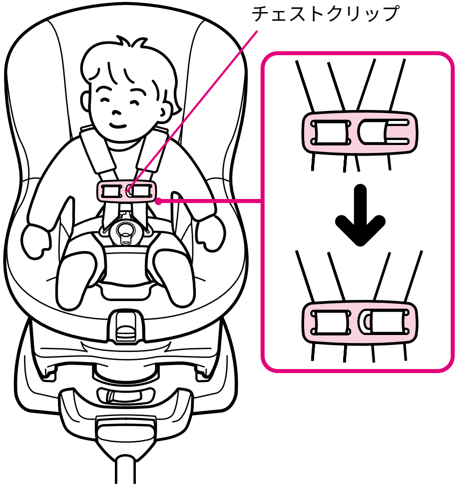
差込表示が「緑色」に変わっていることを確認してください。



警告

- 左右の差込タングが、完全にバックルに差し込まれて表示が緑色になっていないと、衝突時に子供が飛び出したり、ベルトが首に巻き付き、窒息するなどのおそれがあります。

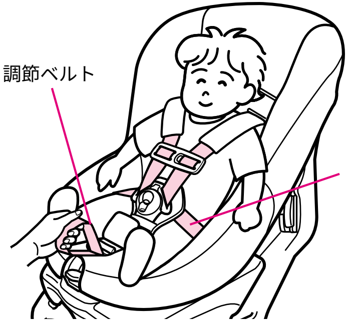
6 チェストクリップを幼児ベルトに取り付けます。



ワンポイント

- バックルは、お子さまの力ではずれないよう固くしてあります。
- お子さまを座らせていないときも、差込タングをバックルに差し込んでおいてください。

7 調節ベルトを手前に引き、左右の幼児ベルトがお子さまの体にフィットするように調節します。
（37ページ参照）



ワンポイント
- お子さまが窮屈でないように、また幼児ベルトがたるんだり、ゆるまないように調節してください。

8 座席部を回し、お子さまの体重に合わせて前向きまたは後向きにします。

注意
- お子さまを乗せた状態で回転させるときは、お子さまの手足がベース部と座席部の間などにはさまらないようご注意ください。

こんなときには

チャイルドシートを、より確実に固定する方法

●後座席で、後向きに取り付けた場合

車の前座席を後ろにスライドさせ、チャイルドシートの背面に接するようにしてください。より確実に固定できます。

●前座席に、後向きで取り付ける場合

エアバックが装着された座席では、使用できません。また、より安全な後ろ座席への取り付けをおすすめいたします。

ダッシュボードとチャイルドシートの背面が接するように座席をスライドさせてください。より確実に固定できます。

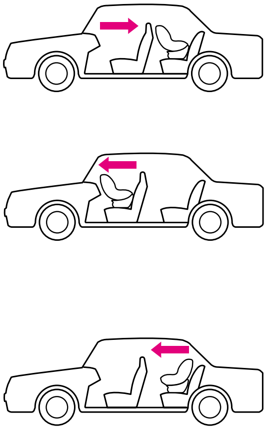
※車種により、ダッシュボードに接しない場合があります。

●スライドできる座席に取り付けた場合

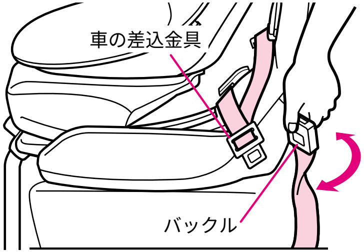
取り付け手順終了後、座席を前にスライドさせてください。より確実に固定できます。

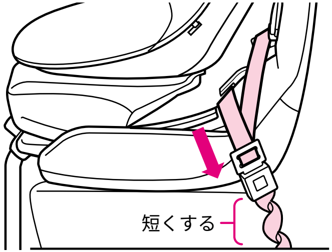
警告
- エアバッグが装着された座席では、前向き、後向きともに使用しないでください。エアバッグの作動による衝撃で、危険な状況になります。(装備されているのがサイドエアバッグのみの場合には使用できます)

車のシートベルトのバックルが、チャイルドシートのシートベルト通し部の角に当たり、不安定な場合



シートベルト（短ベルト）のバックルがシートベルト通し部の角に当たり、しっかり固定できない場合は、図のように対応してください。





1 差込金具をはずしてバックルを持ち、短ベルトに1〜3回ひねりを加えて短くします。

2 もう１度差込金具をバックルに差し込み、固定します。

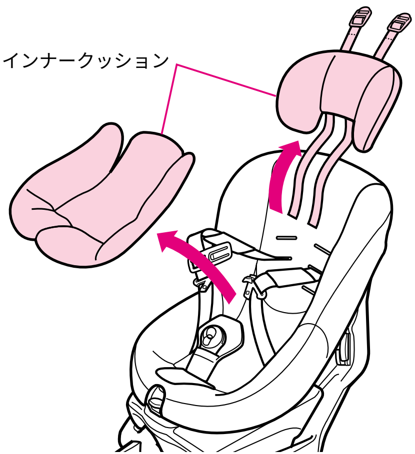
※ 1〜3回ひねりを加えてもシートベルト通し部の角に当たる場合は、当社専用のフィットマット（別売）をご使用ください。（ただし、付属の角度調節マットとの併用はできません）

⚠ 警告	● ひねりを加えてもしっかり取り付けられない場合は、使用しないでください。 本来の機能を果たさず、危険をまねくおそれがあります。

お手入れのしかた

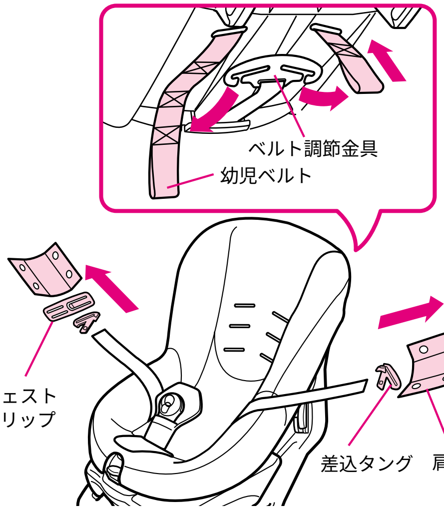
シートクッションのはずしかた

インナークッションやヘッドパッドなどをはずします。（15～17ページをご覧ください）



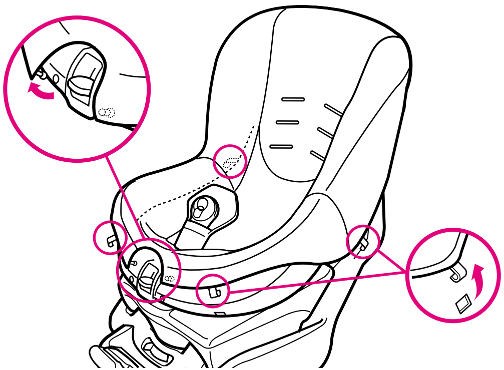
ワンポイント
- 差込タングは、左右を確かめて、股あてパッドのバックルに差し込んだままにしておくと、取り付けるときに簡単にできます。
- インナークッション座面用を洗濯するときは、裏側のホックをはずし、中に入っているウレタンをぬいてください。

左右の幼児ベルトを、本体裏側にあるベルト調節金具からはずし、肩ベルト通し穴から引き抜きます。（34ページをご覧ください）
幼児ベルトから差込タング、チェストクリップと肩ベルトカバーをはずします。

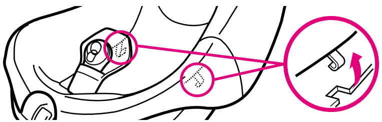


次ページに続く

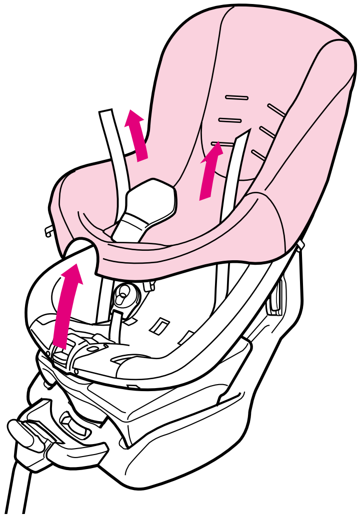
シートクッションの外側にある6カ所のフックをはずします。



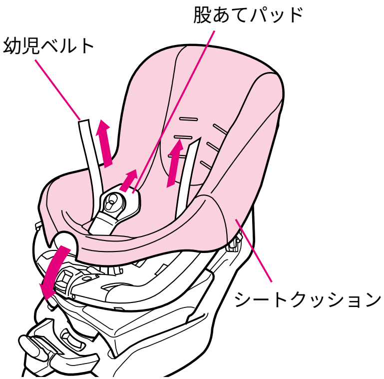
内側2カ所のフックをはずします。



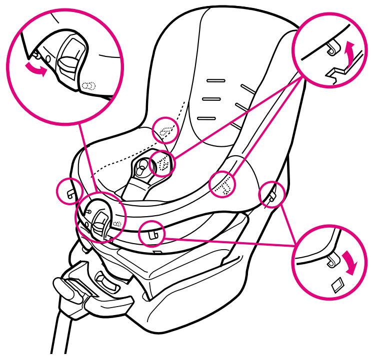
股あてパッドのところからシートクッションをはずし、幼児ベルトを引き抜き、そのまま上に引き上げます。



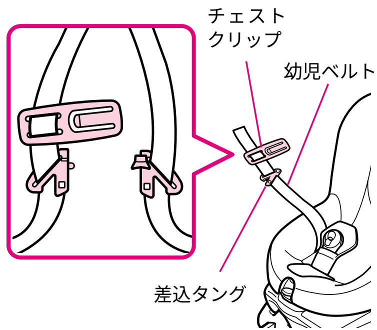
シートクッションの取り付けかた



1 シートクッションを本体の背の部分にかけ、バックルを股あてパッドの穴から通し、シートクッションを全体にかけ、幼児ベルトをねじれないように表側に引き出します。

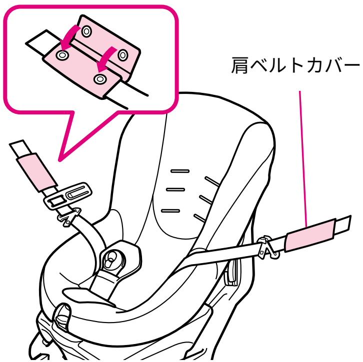


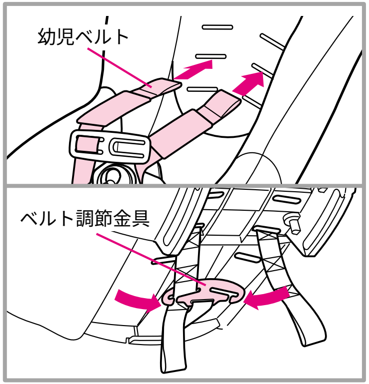
2 シートクッション内側のフック２カ所と、シートクッション外側のフック6カ所を、それぞれ本体の溝にとめます。

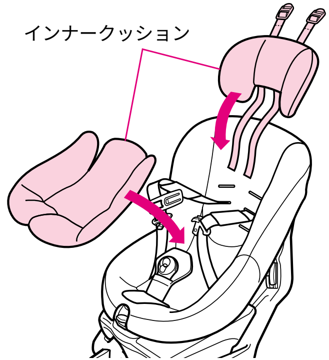


3 幼児ベルトに差込タング（左右、表裏を確認してください）とチェストクリップを通します。

次ページに続く







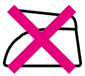
4 幼児ベルトに肩ベルトカバーを巻き、ホックでとめます。

5 幼児ベルトを肩ベルト通し穴に通し、ベルト調節金具に取り付けます。(ベルト調節金具への取り付けは、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」33ページをご覧ください)

6 7kgまでのお子さまの場合には、インナークッションを使用します。
7kg以上のお子さまの場合には、お子さまの体型に合わせてヘッドパッド(EGタイプのみ)をご使用ください。

シートクッション、肩ベルトカバー、インナークッション、ヘッドパッドの洗いかた

●洗濯時は次のことを守ってください。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。 強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干ししてください。

※ インナークッション（座面用）を洗濯するときは、中に入っているウレタンを取り出してください。
※ 蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

⚠警告
● 中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児ベルトをいためるおそれがあり危険です。

本体、幼児ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。

保管のしかた

●取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

●本体

長期間使用しないときは、車から降ろし、風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

製品仕様　ゼウスターンシリーズ

製品サイズ	：	(W)480×(D)620×(H)720 ※サポートレッグを除く
製品質量	：	EGタイプ…13.9kg EGタイプ以外…13.5kg
材質	：	本体…ポリプロピレン シートクッション 表生地…ポリエステル クッション材…ウレタンフォーム